



# ENGINEER® の MPDP ダイアリー



## [Profile]

東京大学工学部卒業後、三井造船入社。米国レンスラー工科大学で修士課程修了後、(株)エンジニアの前身である双葉工具に入社。2004年に同社代表取締役社長に就任。独自の「MPDP理論」によるニッポンのモノづくり立国を提唱している。

高崎 充弘

## 第24回 エンターテインメントとしての プレゼンテーション(講演の心得)

本稿でお話しさせていただいているMPDP理論をセミナーやシンポジウムなどで講演する機会がしばしばあります。「モノづくり企業を活性化する4つの秘訣～ネジザウルスGTの開発から得られたMPDP」と題して、発明協会、商工会議所、地方自治体、金融機関、士業会、業界団体、研究所、教育機関（大学、高校、中学）など、さまざまな場所でさまざまな方々にお話ししてきました。

MPDPの考え方を自社だけのノウハウ（営業秘密）とするのではなく、多くの方々に理解・活用（標準化）していただきたいという強い想いがベースにあるので、お声掛けいただければ喜んでお受けするようにしています。今回はこのような講演の際に、私自身が心がけていることや準備していることを紹介したいと思います。

パワーポイントを使って講演することが多いのですが、大切にしていることが3つあります。

1つ目は、参加予定者の職種やレベル、興味の対象等の情報を主催者から伺い、約150枚のスライドを再構成することです。例えば、学生向けには難しい表現を平易なものに書き直します。反対に、社会人向けでは専門用語を使ったほうが理解が早い場合もあります。

2つ目は「なるほど、そうだったのか！」という納得感。MPDPの重要性とボトルネックを解消するための知財技能士の必要性を心から納得していただきたいのです。

そして最後は笑いです。貴重なお時間をいただいているのですから、やはり楽しさも必要です。プレゼンテーションはエンターテインメント的な要素がなければつまらないと考えています。

講演会の最初に必ず参加者にお尋ねしていることがあります。「ネジザウルスを聞いたことがある方はいらっしゃいますか？」……何人かが挙手されます。「では、既に持っている、使っているという方は？」

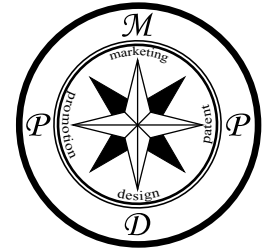
この質問によって、ネジザウルスの浸透具合を時系列的に観測できます。たいてい、まだ持っていない方のほうが多いのですが、それでも落胆してはいけません。

『一家に一本、ネジザウルス』を合言葉にしていますので、この講演会の後、皆さんきっと欲しくなりますよ！」と申し上げるようにしています。そう考えると少しはプロモーションに役立っているのかもしれませんが。

そして、最後の質疑応答の時間も大切です。参加者の興味や疑問点がどこにあるのか、講演で伝え切れなかったことがみえてきます。ときには技術的な質問もあり、潜在ニーズの発見、つまりMPDPのM（マーケティング）にも役立っています。皆さまにMPDPを知っていただくための講演活動ですが、おかげさまで私自身も大いに勉強になっています。次回は雑誌やテレビ等、メディアの取材を受ける際の心得について紹介したいと思います。



台東区少年少女発明クラブ創立20周年の記念講演（2014.09.06）



ウ：社長はん、講演会はいつごろからやってはりますの？  
高：MPDP理論ができた翌年だから2011年の初めだね。最初はこんなに続くとは思っていなかったんだが、講演を聴講した方が別の集まりに呼んでくれたりして、どんどん広がっていった感じかな。  
銀：4年間で回数はどれくらい……？  
高：記録を調べたら、おかげさまで150回以上も講演させていただいているよ。ありがたいことだね。  
ウ：講演の心得として「構成」「納得」「笑い」の3つが大事やっちゃうことですけど、昔からそんな感じでやってはったんでっか？  
高：いやいや、偉そうなことをいっているが、最初のころは緊張もしたし、笑いを取るどころか冷や汗ものだったよ（^^ゞ）  
銀：ふ～ん……。社長はんも人の子でんな。昔は緊張しはったんでっか～？（^^♪）  
ウ：何をうれしそうにしてんねん。アンタの滑舌の悪さとはレベルがちゃうわ！ 同じにしいなや。  
高：銀次郎くんと一緒に講演したこともあったね。  
銀：社長はんがMPDPの話をしはった後で、ワシが3Dプリンターをつこたデザインの話や。今思い出してもちょっとドキドキするな～。また呼んでもらたらいつでもやりませ！  
高：ウルスくんも地元の中学校でお手伝いしてくれたね。  
ウ：社長はんの出前授業の最後に、教室の後ろからサブライズで登場しましてん。「ようかい体操第一」（アニメ「妖怪ウォッチ」の第1期エンディングテーマ）を踊ったら、みんなメッチャ喜んでくれましたな！  
銀：一躍、人気者になったな～、ウルスくん！（^\_^）  
高：台東区少年少女発明クラブでもベビーウルスくんがそばにいてくれたし、いつも2人には感謝してるよ。  
ウ：講演会でボくらを見て、モノづくりの楽しさを感じてもらえたらうれしい限りですわ！

銀：ところで外国人向けの講演はどうしてはりますの？  
高：海外からの研修生向けセミナーや外国で開催されるシンポジウムでは、通訳がある場合も、つたない英語で自らプレゼンするケースもあるが、3つの心得は日本と同じだよ。エンターテインメントの演出だ。  
ウ：まずはお国柄やバックグラウンドを調べ、興味の対象を絞り、スライドを海外向けに「編集」でんな。  
銀：次に、MPDPを「ガッテン」してもらおう。  
高：「笑い」は最難関なんだが、成功したときは最高に気持ちがいいよ（\*^^）v  
銀：社長はん、言葉の話で思い出したんやけど、一緒に講演させてもらたときは、大阪弁ちゃいました？  
高：えっ、いや、そうだったかな？ ……あまりよく覚えてないんだが……（\*\_\*)  
ウ：そういえば出前授業も大阪弁でしたな。この対談ではボくらがコテコテ・ベタベタの大阪弁、社長はんはフツウの標準語ですやん。なんで講演は大阪弁でんの？  
高：実はね、最初のころは箱根の山を越えたら標準語、西は大阪弁と使い分けてた。しかし、ど～うしても標準語では「納得感」が伝えられなかったんだ。  
銀：それ、よう分かりませ！ 正味の話やぶっちゃけトークは大阪弁やないとインパクト弱すぎますわ。  
ウ：銀次郎はんから「知財検定さあ、受けちゃいませんか？」なんて言われたら背中ムズムズするし（笑）。  
高：標準語が良い悪いではなくて、慣れ親しんできた大阪弁が一番気持ちを伝えられるっちゃうこっちゃ！  
ウ・銀：キタ————（°▽°）————ッ!! た、確かにピンピン伝わってきますわ！（^\_^メ）  
高：そんなこんなで「構成」「納得」「笑い」の3要素を体得するまで、いろいろあったっちゃうわけや！  
ウ・銀：ウワ～、次回もこのままいくんやるか？ お後がよろしいようで……。